



# グリーンフィールドでの新産業創造・発信 - 大田区

## 今回のインタビューは大田区、三須課長補佐

羽田空港を有する東京都大田区は、羽田空港跡地に公民連携事業で「羽田イノベーションシティ」をまち開きした。羽田イノベーションシティは、「羽田空港跡地エリアには人が住んでいない」という立地上の特徴を活かして、制約が少ない環境下だからこそ可能な先導的な取組のテストベッドとして活用している。

テストベッドでは、どのような取り組みを進めているのか、今後どのような方向に向かうのか、この事業を推進している、空港まちづくり本部空港まちづくり課の三須氏に内容を伺う。



### 大田区空港まちづくり本部 空港まちづくり課 課長補佐 三須亮平氏

平成18年に大田区に入庁、現在は羽田空港の沖合展開事業等により発生した羽田空港跡地整備事業における第一期事業（羽田イノベーションシティ）のまちづくりを公民連携により進める。

## 大田区



### 位置

- 東京都の東南部に位置。東は東京湾、西・南は多摩川に面し、江東区、品川区、目黒区、世田谷区、神奈川県川崎市とそれぞれ隣接する。

### 人口

- 727,456人（令和4年）

### 産業構造

- 製造業が基幹産業
  - 3,481もの工場をかかえる日本有数のものづくり企業の工業地帯
  - 金属加工を専門とする事業者が多数

### 国のスマートシティ関連事業の採択状況

- 総務省 令和2年度データ利活用型スマートシティ推進事業

# 1. 地域の課題 / 解決策の構想

## 人が住んでいない立地を生かしたテストベッド

—スマートシティのご検討をスタートされた時点では、地域の何を解決すべき課題と捉え、動き始められたのでしょうか

### 三須課長補佐：

羽田イノベーションシティは、羽田空港跡地を活用した事業として、大田区と民間事業者の公民連携により2020年7月にまち開きした新しいまちです。ここでは、モビリティやロボティクスなど先端技術の研究開発や、日本のゲートウェイである羽田空港に近接している立地特性を活かしたショーケーシングを行い、地域経済の活性化と国際競争力の強化を目指しております。

大田区の地域課題は交通弱者への移動支援、担い手不足による生産性向上、モノづくりの観光資源化、健康寿命の延伸、それらを包含するように産業の活性化という多岐にわたる課題を有しております。これらの課題に対して、モビリティやロボティクスの先端技術を活用できるようスマートシティの構築に取り組んでおります。

—空港跡地という好立地をどのように活用しようと考えたのでしょうか、取り組みの概要を教えてください

### 三須課長補佐：

羽田イノベーションシティが立地する羽田空港跡地エリアは、人が住んでいないという特徴があります。その特徴を活かし、羽田イノベーションシティを大田区全域の課題解決のための「テストベッド（実証実験フィールド）」として活用し、スマートシティの構築に繋げることをしています。そのため、実装に向けた様々な実証実験を行うとともに、地域課題の解決に向けた研究開発やショーケーシングとして活用を見込んでいます。



上空から見た大田区 羽田空港跡地エリアを活用（大田区）

一人が住んでいない場所に新しいまちを開いた点が「羽田イノベーションシティ」の特徴とありますが、誘致や民間事業者との連携の実績はいかがでしょうか

**三須課長補佐：**

実証実験のほか、総務省における令和2年度予算の「データ利活用型スマートシティ推進事業」において、多様な主体が参画するアイデアソンを実施し、5社を採択するなど、新たな主体の巻き込みが公民連携のもと実現できていると考えています。

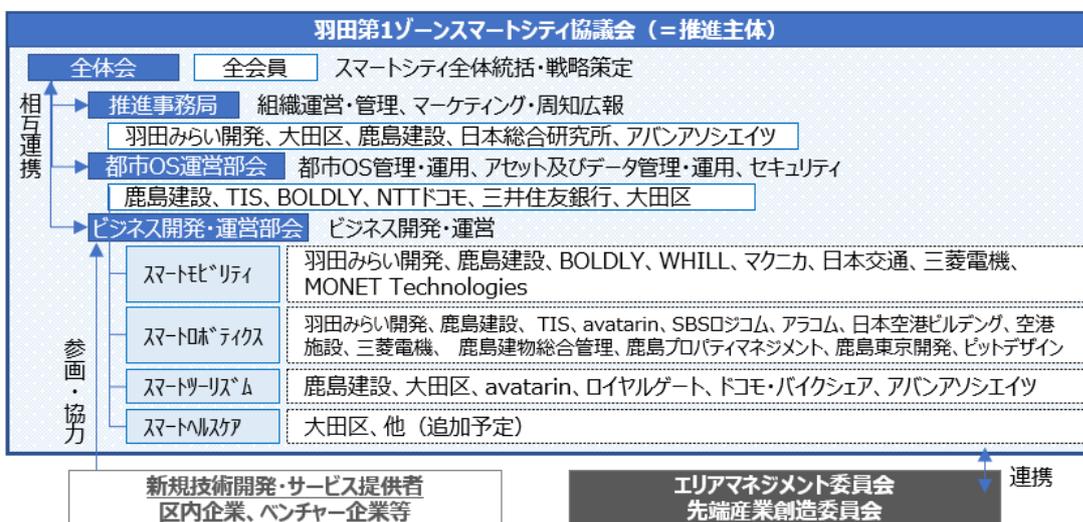
## 2. 解決策の実現 - 「スマートシティ」への具体化

### 参画企業が共同出資する株式会社を設立し、推進

―大田区のスマートシティでは、「羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会」がご検討の中心にいらっしゃるかと思います。協議会の組織や参加者を伺えますでしょうか。また、この事業のために民間9社の出資で設立された「羽田みらい開発株式会社」の役割はどのようなものでしょうか

**三須課長補佐：**

羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会は、羽田みらい開発株式会社代表取締役が会長、大田区長が副会長を務め、方向性を示したり公民連携の舵取り役を担っています。この他には、モビリティやロボティクスなど実証実験を行う先端企業などが参画しています。



羽田第1ゾーンスマートシティ協議会 体制図 (大田区)

—たくさんの組織が様々なかたちで関わっておられるのですね。この協議会に、区役所はどのような立場や役割で関わっていらっしゃるのでしょうか

### 三須課長補佐：

区は行政として地域課題の提示、目的意識の明確化、KPI・KGI設定やスマートシティ構築に向けた庁内体制の整備など公民連携を進めるための行政としての役割で関わっています。

[編集者まとめ1]

## 大田区が目指す財源収入の計画 —3つの柱で財源の確保を目指す—

- ①管理コストの削減
- ②テナント収入の向上
- ③新規ビジネス収入の確保

を通じて、持続可能なスマートシティの構築、維持管理、運営を実現する。

### 管理コストの削減

スマートモビリティ、スマートロボティクス、スマートマネジメントに取り組み、自動運転モビリティ、ロボティクスを活用した人件費の削減と、スマートビルマネジメントシステムで既存業務を効率化し管理の省力化及びエネルギー削減等を行う。

### テナント収入の向上

#### ■ テストベッドの提供

本事業で構築するスマートシティを実証のフィールドとして貸し出すことによる収入を確保する。

#### ■ 不動産価値向上

本事業でスマートシティを構築することにより、羽田第1ゾーンの価値向上を図る。不動産価値が向上することにより、テナント収入の増加を見込む。

### 新規ビジネス収入の確保

#### ■ スマートサービスの提供

スマートモビリティやスマートロボティクスを活用した新たなサービスの提供を行い、サービス受益者からの利用料収入を確保する。

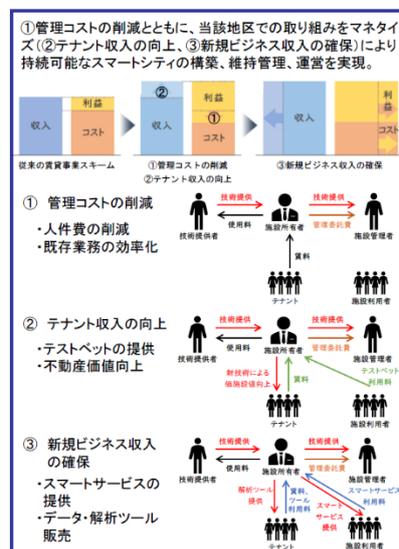
#### ■ データ・解析ツール販売

本事業で活用する各種のデータや解析ツールの一部を有償で公開することにより、データやツールの利用料収入を確保する。

出典・参照

(\*1) 羽田第1ゾーンスマートシティ（羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会）（国交省スマートシティ官民連携プラットフォーム）

[https://www.mlit.go.jp/scpf/projects/docs/smartcityproject\\_mlit\(2\)%2005\\_haneda.pdf](https://www.mlit.go.jp/scpf/projects/docs/smartcityproject_mlit(2)%2005_haneda.pdf)  
 (2022年3月25日参照)



## [編集者まとめ2]

### 羽田スマートシティの都市OS —BIMを活用した都市OSを導入—

鹿島建設が開発したシステムであるBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）を活用し、様々なデータを3次元で統合・可視化・分析可能な「3D K-Field」という空間情報データ連携基盤を実装している。

3D K-Fieldというデータ連携基盤を活用し、まちの情報をリアルタイムに統合して、バスの自動運転や荷物の自動配達、観光案内などに活かしている。



#### 出典・参照

(\*2) 国土交通省スマートシティモデル事業「先行モデルプロジェクト」に選定 先端技術の早期実装に向けた実証実験が9月18日より始動 ^ 実証的取組適したテストベッドを形成し、地域課題の解決へー

<https://www.kajima.co.jp/news/press/202009/pdf/11a1-j.pdf>

(2022年3月25日参照)

(\*3) 羽田空港第1ゾーンスマートシティ空間情報データ連携基盤3D K-Field整備事業（国交省スマートシティ官民連携プラットフォーム）

[https://www.mlit.go.jp/scpf/projects/docs/smartcityproject\\_miac%2019\\_oota.pdf](https://www.mlit.go.jp/scpf/projects/docs/smartcityproject_miac%2019_oota.pdf)

(2022年3月25日参照)

(\*4) 羽田第1ゾーンスマートシティ（羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会）（国交省スマートシティ官民連携プラットフォーム）

[https://www.mlit.go.jp/scpf/projects/docs/smartcityproject\\_mlit\(2\)%2005\\_haneda.pdf](https://www.mlit.go.jp/scpf/projects/docs/smartcityproject_mlit(2)%2005_haneda.pdf)

(2022年3月25日参照)

### [編集者まとめ3]

## 羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会のKPI —アウトプット指標とアウトカム指標で測定—

協議会のKPIとして、以下のようにアウトプット指標とアウトカム指標を設けている。

| アウトカム指標                                                   | アウトプット指標                                    |
|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 新サービス導入数<br>新産業創出件数<br>海外との取引件数<br>大田区の新法人設立数             | データ連携基盤を活用した実証実験数<br>スマートシティ関連ビジネスイベント実施件数  |
| 区域の回遊量(移動量)<br>区民交通満足度                                    | 自律型モビリティ台数<br>乗客者数<br>導入モビリティ台数<br>運営コスト削減率 |
| 区内の高齢者に占める要介護認定者割合<br>区内の介護サービスサービス受給者数<br>区民平均BMI、検診受診割合 | 健康アプリ利用者数                                   |
| 区内企業売上高/区内従業者数<br>維持管理業務コスト削減率<br>ロボット運営コスト削減率            | ロボット導入種類<br>ロボット導入台数<br>データ活用件数             |
| 来街者数<br>大田区の観光入込客数、日帰り観光客数                                | 大田区観光情報発信数<br>AI観光案内利用者数                    |

### 出典・参照

羽田第1ゾーンスマートシティ（羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会）（国交省スマートシティ官民連携プラットフォーム）

[https://www.mlit.go.jp/scpf/projects/docs/smartcityproject\\_mlitt\(2\)%2005\\_haneda.pdf](https://www.mlit.go.jp/scpf/projects/docs/smartcityproject_mlitt(2)%2005_haneda.pdf)  
(2022年3月25日参照)

## 3. ハードルとチャレンジ

### 公民の力を合わせ、国内外の課題解決のモデルを目指したい

—ここまでたどり着くには長い道のりがありました。ここまでの道のりで特に苦労されたポイントはどの辺りだったのでしょうか

#### 三須課長補佐：

まだまだ羽田イノベーションシティのまちづくりもスマートシティの構築も始まったばかりですが、グリーンフィールド型のまちづくりであるため、全てがゼロからのスタートです。そのため、目標や目的の設定から、実施すること等様々なことについて整理することから始めました。

—そういったポイントを乗り越えるためにどのような工夫をされたのでしょうか

#### 三須課長補佐：

民間事業者の皆様などと積極的な対話を重ねることにより、行政と民間事業者の考え方の違いを踏まえ、相互理解を育んだことです。

—今後の大田区のスマートシティは、こういった方向に発展していくと良いとお考えですか

#### 三須課長補佐：

スマートシティは地域の課題解決に向けた取り組みであるため、羽田イノベーションシティでの実証実験や実装にとどまらず、区内全域をはじめ、国内外の課題解決に資するモデルケースとして発展させるべきと考えています。そのため、前例のない取り組みですが、民間事業者と力を合わせ、公民双方で互いの強みを活かしていきたいと考えます。

